

日本精神保健社会学会

平成 27 年 9 月 1 日

THE JAPAN ASSOCIATION OF
MENTAL HEALTH SOCIOLOGY

事務局：栃木県宇都宮市豊郷台 1 - 1
帝京大学宇都宮キャンパス

<日本学術会議協力学術研究団体 No.1001>

滝澤武研究室内

TEL&FAX 028-627-7188

ニュースレター第 55 号

発行人：宗像恒次

編集人：上田敏子、窪田辰政

第 21 回学術大会・総会のお知らせ（最終版）

●開催日：平成 27 年 11 月 23 日（月）祝日

●会場：筑波大学東京キャンパス 119 教室

●大会テーマ：「見捨てる社会での共存を求めて」

大会実行委員長 山口 豊（東京情報大学総合情報学部准教授）

●プログラム

第 1 部（10：00～12：00）

10：00～ポスター発表

12：00～昼食・休憩

13：00～13：30 学会総会

第 2 部（13：40～16：30）シンポジウム

「見捨てる社会での共存を求めて」

自己保身のために他者を見捨てるサバイバル脚本をもつ私たち、だがそれだけでは生きる意味がない。だからお互いの心地よい関係をつくる共存脚本を持ちたい私たち。だが実際は両者の折り合いをつけて生きるところに真実があるのかもしれない。（宗像恒次会長）

○介護の虐待予防とケアマネジメントの役割

服部 万里子氏

（一般社団日本ケアマネジメント学会副理事長，立教大学コミュニティ福祉学部福祉学科講師）

○日本社会における韓国人の差別意識

李 貞淑氏

（日韓親善のためのフェロー）

○「貧困の連鎖」から「おせっかいの連鎖」へ

～地域を変える、子どもが変わる、未来を変える～

栗林 知絵子氏

(NPO法人豊島子どもWAKUWAKUネットワーク理事長)

(司会進行)

宗像 恒次

(筑波大学名誉教授 日本精神保健社会学会会長)

17:30～ 懇親会

参加費：1) 一般 4,000 円 会員 3,000 円 学生 2,000 円 (学生証のコピーが必要)

2) 懇親会 4,000 円

3) シンポジウムのみ参加 一律 2,000 円

★ポスター発表の演題募集★

発表希望者は演題名を **9月23日(水)**までに事務局へお申込みください (FAX または郵送にて)。抄録については、**10月23日(金)**までに事務局まで提出してください。

ポスター発表のスペースは、90cm×180cm (A4用紙で20枚程度貼れるスペース) を予定しています。日頃のご研究の成果をぜひこの機会にご発表ください。

なお、円滑な会の運営のため、発表者の方は抄録提出時に**連絡先(電話番号とメールアドレス)**をお知らせください。なお、連絡先については事務連絡用のみに使用します。ご協力のほどよろしくお願いいたします。

昨年のポスター発表の様子



関連学会情報

日本運動・スポーツ科学学会第22回大会に参加して

山本清香¹⁾、町田香菜¹⁾、山口豊²⁾、窪田辰政¹⁾
(¹⁾ 静岡県立大学、²⁾ 東京情報大学)

2015年6月13日(土)、日本医科大学武蔵境校舎にて、「日本運動・スポーツ科学学会第22回大会」が開催された。今回も各大学の研究者や専門家により、特別講演や口頭発表、ポスター発表が行われ、最新の研究とその成果が発表された。ここに、今大会の様子を報告する。

特別公演は日本医科大学医療心理学教授の野村俊明氏により、「高齢者によく見られる精神疾患とその非薬物治療」という演題で行われた。昨今注目を集める非薬物療法がうつ予防につながるとして、身体活動や運動の重要性を考える大変有意義な講演となった。

また、口頭発表は「スポーツを通じたグローバル人材の育成」「体育科教育へのインターネットを活用した支援」「大学ゴルフ授業におけるアクティブラーニングの実態」など7件が発表され、ポスター発表では「思考力の育成を目指した教科書横断型学習の実態」「夏季における大規模災害を想定した徒歩移動の安全性に関する検討」「スキー・スノーボード実習の現状と今後の課題」など10件が発表された。筆者らは山口らとともに、口頭発表にて「SATイメージ療法による身体パフォーマンス変容に関する研究ーバドミントン・サービス実験からー」と題し、SATイメージ療法によるバドミントンのサービスの改善について報告した。またポスター発表の「青少年のセルフエスティームと運動セルフ・エフィカシーに関する文献的展望」ではセルフエスティームの向上にとって、運動セルフ・エフィカシーは有意な正の関連要因であることが明らかとなり、また、運動セルフ・エフィカシーの高さはセルフエスティームの高さを反映することが示唆されたことを報告した。いずれの発表においても様々な意見等を頂き、今後の研究への参考とすることができた。

今大会は各分野・視点から様々な研究が行われており、最新の知見も得ることができ、大変有意義な時間であったと考えられる。

日本精神保健社会学会入会のご案内

1. 主旨

今日ほど、社会諸科学がその社会的責任を果たすことを必要とされている時代はないでしょう。とりわけメンタルヘルスの問題は、慢性化する内戦や犯罪に始まり、薬物依存、弱者虐待、閉じこもり、抑うつ、仕事中毒、セックス中毒など、国も内外に山積しています。

これまで産業社会を支えてきた近代科学技術は、感情を極力排し、事柄のみに基づいて判断し、評価する秩序を作り、豊かな物の生産と消費の基盤を発展させてきました。しかし、そうした感情を排する秩序を徹底して作れば作るほど、人と人との共感する心は失われるのです。そして、「自分の持つ本当の感情は何か」を見失い、無気力に閉じこもったり、あるいは食、セックス、地位などの快感を求めることに逃避したり、弱い立場にある者を差別し、様々なかたちの暴力を加えるのです。ところが、これらの問題は、これまでの各ローカル社会における従来の秩序のあり方では、解決できなくなってきました。

そこで私達は、自分や相手の本当の感情を見だし、共感しあうメンタルヘルスを求めています。そして、それを個人にとどまらず、集団、社会に、さらには文化として表現する具体的かつ実践的な対応策を導き出すためには、精神保健社会学の理論と方法論とが必要であります。

学会長には情動認知行動療法研究所の宗像恒次氏が選出され、理事達の顔ぶれも社会学、心理学、保健学、社会福祉学、精神医学、公衆衛生学と多岐に渡っています。

様々な分野の方々が、入会下さるよう期待しています。

2. 指針

- ①メンタルヘルスの背景となる社会・文化的構造と変動を、社会学的な視点から研究をすすめて、世論の形成に寄与し、社会的貢献を果たす。
- ②大会やイベントにワークショップ形式を導入し、学会の運営に会員が積極的に参画する。
- ③国際的にも仲間づくりをすすめていく。
- ④建前を排し、本音で語り合える仲間や研究グループを形成する。
- ⑤社会学を専攻する学生達に、夢を与えるような仕事をする。
- ⑥大会やイベントごとに論文や本などをまとめて出版し、成果を社会に還元して行く。

3. 入会申し込み方法

送付先：〒320-8551 栃木県宇都宮市豊郷台1-1 帝京大学宇都宮キャンパス 滝澤武研究室内

日本精神保健社会学会事務局 TEL. 028-627-7188 FAX. 028-627-7188

入会金：5,000 円

会 費：通常会員 5,000 円、学生会員 3,000 円、賛助会員一口 10,000 円（一口以上）、機関会員 20,000 円

送金先：郵便振替 00170-6-613036 加入者名 日本精神保健社会学会

※ FAX、または郵送にてお申込ください。承認後、振込み手続き等をご送付します。

日本精神保健社会学会入会申込書

フリガナ 氏 名		生年月日	西暦 年 月 日 歳 (男・女)
会員種類	通常会員・学生会員・賛助会員・機関会員 を希望する	連絡先	所属先・自宅 を希望する
所属先名 及び住所	〒 TEL. FAX.		
自宅住所	〒 TEL. FAX.		
所 属 系 (○印で)	社会学・文化人類学・経済学・哲学・心理学・社会福祉学・教育学・看護学・医学・保健学・栄養学・ 体育学・地理学・行政学・政治学・その他()		
関心領域			